

子ども子育て会議 要録(令和6年度 第2回 令和6年9月20日)

区分	内容
1. 開会あいさつ	
委員長あいさつ	
2. 議題	
(1) 子ども・子育て支援事業計画(第2期)令和5年度実施状況について	
事務局	事務局より、 「(1)子ども・子育て支援事業計画(第2期)令和5年度実施状況について」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか
委員長	事業の評価については、具体的な項目の達成状況に応じて評価が決まるような仕組みにしてほしい。
委員	児童虐待に関して、事例の件数を公表しているか。また、事例の件数と、その事例のうち何件が保護につながっているのか把握しているか。
事務局	児童虐待の対応件数は公表していない。要保護児童対策地域協議会等の関係機関には会議等で共有している。 実際に、小郡市でもここ数年間で対応件数が増えている。特徴としては、面前 DV などの影響による心理的虐待が多く、その次にネグレクトが多い傾向にある。 小郡市のケースにおいて、児童養護施設等などへの措置となる児童は年に数件。児童の保護は児童相談所の権限なので、数値を小郡市で把握できていない。
委員	数値目標が立てにくく、相談件数が減ればいいものではないと思うが、対応の有効性や効果を評価する仕組みも検討してほしい。
事務局	現在、小郡市では、児童虐待を発見する網の目を細かくする取組を行い、虐待の恐れがある児童や家庭との接点づくりを中心に進めている。 ただし、対応が必要な児童や家庭に対しては、計画的な取組と目標設定が必要だと考えており、国もサポートプランの作成を推進している。困難家庭については、それぞれの支援プランを作成し、目標とその対応の成果を確認しながら対応ができるよう進めていきたい。
委員	現在、虐待と確認している件数のうち、発見の機会となる母子手帳の発行や乳幼児健診などの際にどの程度予期できていたか、数値的に確認できるものはあるか。
事務局	数値で把握できていない。現在は、虐待発見の網の目を細かくすることと、精度を高める取組を行っている。その取組の一環がこども家庭支援センターの設置で、それによって母子保健と児童福祉

	<p>が同じ組織になり、都度情報を共有しながら、早期の対応ができるようになった。</p> <p>虐待は繰り返されることが多く、児童の生育歴を振り返ると、過去にも虐待があったり、乳幼児健診などで気になる様子が記録されていたりする場合が大半。今後はあらゆる機会を見逃さずに家庭と接点をつくっていくことを目指していきたい。</p>
委員	児童虐待件数を公表していない具体的な理由はあるのか。
事務局	そのことについて具体的な結論があるわけではないが、数字が独り歩きしないよう、要保護児童対策地域協議会や子ども・子育て会議などの関係者に対する会議や研修などでのみ状況を伝えている。
(2) 第3期計画のアウトラインについて	
事務局	事務局より 「(2) 第3期計画のアウトラインについて」説明
委員	かなり大変な作業だと思うが、前回の会議でもこどもからアプローチできるものがあつたらと伝えていたので、ありがたく思う。市民が計画を見る機会は多くないと思うが、年齢ごとに作られるのであれば、目を通す機会が増えるのではないか。
委員長	<p>表を横にみていくと、何に取り組まれているかはわかるが、こどもを中心に据えてみたときに、総合的にみたこどもと地域の関係が見えてくる。</p> <p>福岡県のようにすべてを網羅するのではなく、小郡市が小郡らしく地域や学校と連携してできることを見つけていくことも大切ではないか。行政の縦割りをこえた小郡流の取組を期待している。</p>
事務局	今までは、制度をこどもや家庭に当てはめていたように感じている。こどもを真ん中に据えたうえで、こどもがどのような資源に囲まれているのかを可視化すると、全体像が見えてくると思うので、挑戦したい。
委員	自立支援協議会でもエコマップづくりを予定している。一緒にできる部分があれば共有したい。
(3) 子ども・子育て支援に関するアンケートについて	
事務局	事務局より 「(3) 子ども・子育て支援に関するアンケートについて」説明
委員	アンケートの実施と公表の時期は。
事務局	子ども・子育て支援に関するアンケートは年内に結果をまとめたかと考えている。
委員	調査は全員調査か。
事務局	全調査を想定している。
委員	<p>選択肢について、地域から資源・人など順番は検討してほしい。</p> <p>教育関係や障害福祉関係などのあらゆる計画とのつながりも検</p>

	討してほしい。
副委員長	外国籍の方も多いので、漢字だと理解しにくいので配慮してほしい。
委員長	Webでも回答できるのか。アンケート量も多いが、事務局で回答してみたか。
事務局	相応の時間がかかると思っているので、負担軽減を検討したい。
副委員長	同様の調査の回収率は
事務局	前は70%近い数値で把握している。 今年度の目標は60%に設定している。
委員	ヤングケアラーの項目は必要だと思うが、表現の仕方と相手の受け取り方によっては大きなショックを与える。 ヤングケアラーは当事者を意識せずに定義をしている部分もあるので、掲載の仕方は検討してほしい。
事務局	ヤングケアラーは、家事や介護等によって自分の時間が奪われている状態であることがわかるよう設問を検討したい。
(4) その他 「こども基本法の基本理念に関する意見交換」	
事務局	事務局より 「(4) その他 「こども基本法の基本理念に関する意見交換」」 について説明
意見交換	別紙(記録)参照
3. 閉会あいさつ	
副委員長あいさつ	